

## 第5回 JLPP 翻訳コンクール 英語部門講評

翻訳家、日本文学研究者、  
カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授  
マイケル・エメリック

JLPP 翻訳コンクールの審査委員会に参加させていただくのは今年で四度目ですが、毎年、応募作品をととても楽しく拝読しております。翻訳に初めて挑戦する方から、何年も前から訳文を練り上げる醍醐味にヤミツキになっている熟練者まで、さまざまなバックグラウンドの方々の訳文を読むことによって、文学、言葉そのものの味わいに改めて気づかされます。

本年度のコンクールの応募者数は従来よりも多かったようで、全体として訳文の質もきわめて高かったという印象をいただきました。そのなかでも、最優秀賞に選ばれた Richard Donovan 氏の手がけた英訳作品は、群を抜き、本当に素晴らしかったです。翻訳対象のひとつであった谷川俊太郎氏のエッセイ「思いつめる」には「思うという行為は、考えるという行為に比べて、より感情的であり、より不正確である」という箇所があるのですが、思うと考えるという言葉の違いを Donovan 氏は *think of* と *think about* と、前置詞をもって表現していました。なかなか思いつかない、形相に惑わされないこの翻訳には、私は舌を巻きました。伊藤比呂美氏の「みんなのしつと」の英訳における方言の使い方も、生き生きとしていて、文章が冴えておりました。

優秀賞に選ばれた Angelo Wong 氏と手嶋優紀氏の訳も、またそれぞれ、Donovan 氏の訳とも、スタイルも、原文に対する姿勢も異なっておりましたが、二人とも翻訳対象の作品を深く、丁寧に読みこんでおり、独特の感性を持つ、説得力のある文章になっております。

Richard Donovan 氏、Wong 氏、手嶋氏という3名の受賞者をはじめ、受賞には至らなかったけれど、丁寧で、味のある、力強い訳文を提出された多くの応募者が、これからも翻訳に携わり、ご活躍を続けていくことを心から願っております。